

柳沢公民館 柳沢1-15-1 ☎042-464-8211 kouminkan@city.nishitokyo.lg.jp  
田無公民館 南町5-6-11 ☎042-461-1170 tana-kou@city.nishitokyo.lg.jp  
芝久保公民館 芝久保町5-4-48 ☎042-461-9825 shiba-kou@city.nishitokyo.lg.jp

谷戸公民館 谷戸町1-17-2 ☎042-421-3855 yato-kou@city.nishitokyo.lg.jp  
ひばりが丘公民館 ひばりが丘2-3-4 ☎042-424-3011 hibari-kou@city.nishitokyo.lg.jp  
保谷駅前公民館 東町3-14-30 ☎042-421-1125 ekimae-kou@city.nishitokyo.lg.jp

## 「今日は 住吉小学校と保谷高校の連携」

# 高校生の先生が来る日♪

西東京市立住吉小学校(以下「住吉小」と東京都立保谷高等学校(以下「保谷高」)。近接した二つの学校で、数年前から連携事業が行われています。あまり例のない小学校と高校の交流を取材しました。

月に一度、火曜日の午後、住吉小の授業に、赤ペンを持った保谷高の生徒がやってきます。各学級に2〜3人ずつ入り、ドリルの丸つけなどを行うのです。この時間は、住吉小の校庭にある大きな木にちなんで「けやきタイム」と呼ばれています。

### 連携のはじまり

きっかけは、平成24年から26年にかけて行われた保谷高の校舎と体育館の大規模改修工事です。部活動が難しくなった保谷高が校庭を貸してほしいと依頼したところ、住吉小が快諾。そのお礼に何かできないかとの保谷高の申し出に、住吉小が児童の学習の手伝いをお願いしたことから始まりまし。

### 「けやきタイム」 〜お互いよい刺激に〜

学習の手伝いにくるのは、この時間帯に授業のない3年生の希望者で、その多くは、将来、教員や幼稚園教諭、保育士などをめざしています。ドリルの丸つけのスピードも速く、場合によっては子どもに寄り添って教えるなど、小学校の先生からしても頼りがいがあるとのこと。取材した日も、5年生のあるクラスでは、家庭科の「玉結び」

を高校生が机の間を回って手助けしていました。

子どもたちは、この時間を楽しみにしていて、授業終了後にもろくに出た高校生を追って話しかけたり、握手を求めたり…。憧れの存在ともなっているようです。「(高校生の教え方は)めっちゃわかりやすい」とうれしそうでした。

折り紙のおみやげを渡す子どももいて、控室に戻った高校生から「かわいくてしかたない」「小学生はちゃんと教えれば自力で解こうとがんばる」との感想が出ることも。高校生にとっては、将来に向けての職業訓練



小学生のまつすくなところ、学べることがあると感じます。



の機会にもなっています。

お互い元気が出て、「形のなおみやげも持って帰ってもらっている」と住吉小の中村副校長先生は感じています。

住吉小保護者からは、「高校生と実際にふれあうことはよい刺激になっている。これから自分が歩む道を想像でき、将来のよいお手本になっている」との声も聞かれました。

### 広がる交流

学校間の協力はさらに発展してきています。

工事のため住吉小の教室が使えなかった昨年夏は、保谷高の教室を借りて小学校のサマースクール(夏季補習授業)が可能になりました。住吉小のプールで保谷高の水泳部の生徒による

水泳指導も行われました。

また、住吉小の移動教室の際周辺の道が狭いため、以前は大形バスの発着場所が少し離れた所でしたが、保谷高が校内の駐車場を使用するよう提案してくれて、安全な集合・解散ができるようになりました。子どもたちの距離も自然に縮まってきています。

住吉小の子どもたちは、保谷高の文化祭に行くようになり、住吉小の通学路でゴミ拾いをすなわたり見られるようになりまし。北側に校庭のある住吉小は、雪が積もると何日も校庭が使えないことがあります。保谷高の運動部の部員があつという間に校庭中の雪かきをしてくれたこともありました。

### 顔が見える関係の地域に

地元の子どもが通う市立小中学校とは違い、高校の活動は地域住民には見えにくいものです。両校の連携と交流は、住民が保谷高への理解を深めることにもつながっています。

例えば、保護者や住民が参加する住吉小の会議に保谷高の校長先生も参加する機会ができました。一緒に話をする中で、保谷高の生徒が夜も学校にいた日があったのは一泊二日の宿泊防災訓練のためだったのだと、疑問がとけることもありまし。ピンチの時の助け合いから始まった交流は、学校と学校の間だけにとどまらず、地域の中にも変化をもたらしているようです。

高校生の先生が来るのが楽しみ

## 写真で見る いまむかし 保谷町公民館

旧保谷市の公民館の歴史は、昭和22(1947)年に保谷中学校内に「保谷町公民館」が設立されたことに始まります。昭和36年、東伏見小学校の隣に初めての公民館施設が建設されました。昭和46年、本館の住吉町移転に伴い分館となりましたが、昭和57年に「東伏見公民館」として独立、昭和62年4月1日に柳沢公民館が開館する前日、その使命を終え、閉館しました。



保谷町公民館(撮影年不詳)  
西東京市中央図書館地域・行政資料室所蔵



現在は、どろんこ作業所と西東京市シルバー人材センター東伏見作業所の併設施設が建っています  
写真は伏見通りから撮影したもの  
撮影: 牟田信幸(栄町在住)

### わが街をもっと知りたくて

## 地域のつながりをめざして 〜第1回ルピナスまつり〜

7月30日(土)の午後、住吉小学校近くの住吉会館「ルピナス」の1階から3階は、乳幼児を連れた若い夫婦や親子連れ、小学生のグループなど大勢の人であふれていました。初めてのルピナスまつりが開催されたのです。オープニングは8歳から70歳代までが一緒に舞台上に立つフラダンスとひばりが丘中の女子生徒2名によるヒップホップダンス。プースはアメ玉すくいなどの子ども向けのほかに、健康相談やベビーマッサージもあり、乳児から高齢者まで参加できる工夫がされていました。スタッフはみな笑顔で、段ボール迷路やシールラリーではひばりが丘中・保谷高の生徒と武蔵野大の学生、輪投げではシニアが活躍していました。

地域に児童館や公園がないため、乳幼児から高齢者まで幅広い層が利用する住吉会館は、小



アメ玉すくい